ＫＫシート 40 の取付け方法

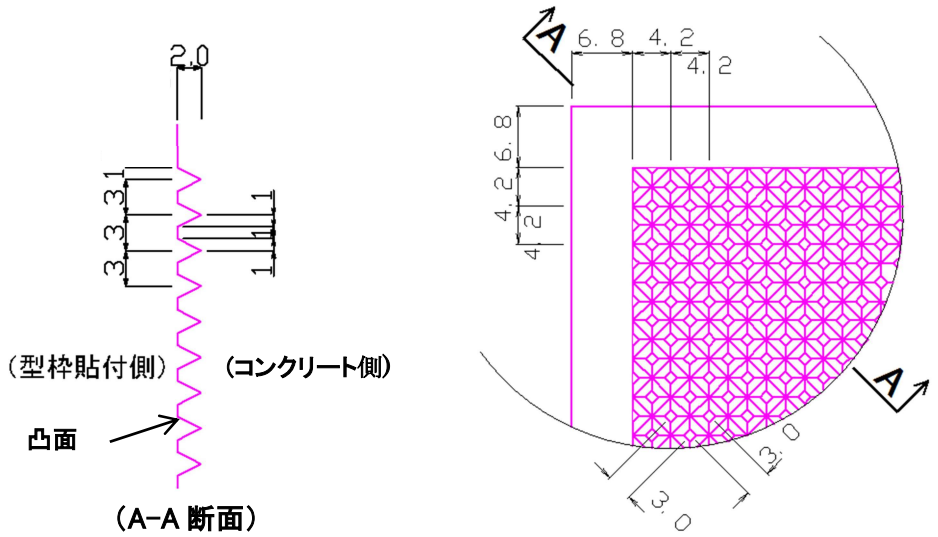
2016.11.01

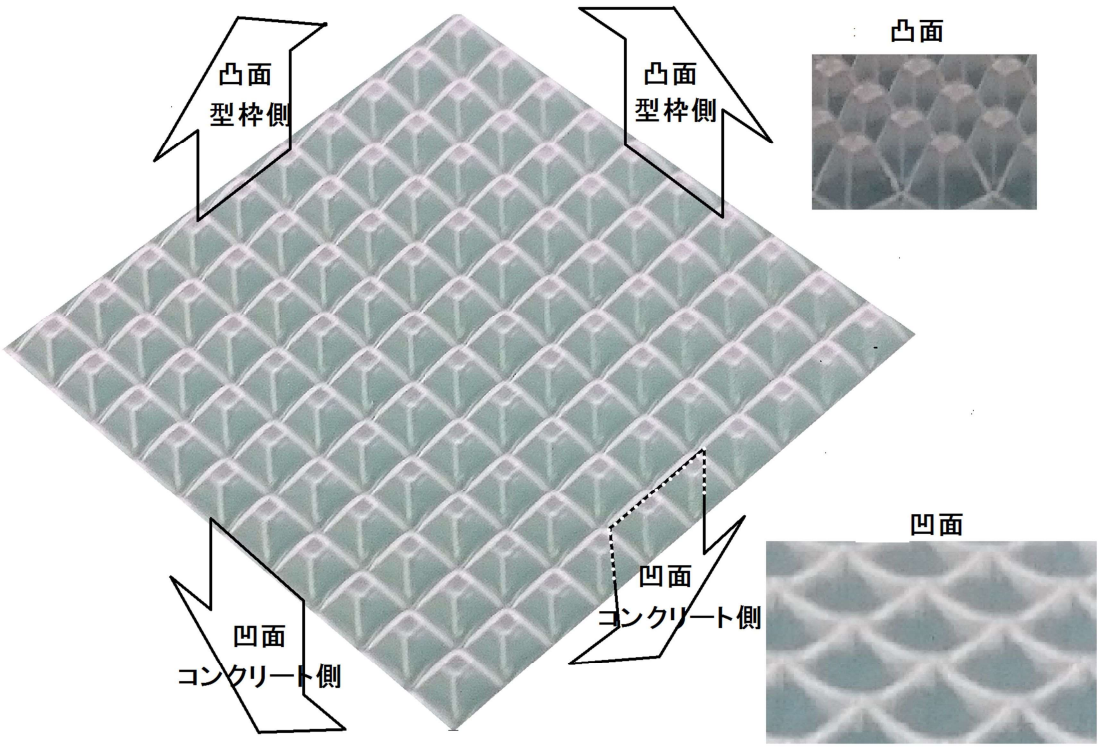
協立エンジ株式会社

今回、骨材 40 ㎜以下のコンクリート鉛直打継ぎ面に適用可能なＫＫシート 40 の販売を開始しました。容易な施工とより良い品質を提供すべく、以下に取付け時の留意事項を説明します。

1)　型枠の製作時（現場組立時）に、設計図書にしたがって削孔された型枠にＫＫシートを貼り付け、タッカー等で確実に固定します（目安：15 ㎝四方に 1 箇所固定）。

2)　ＫＫシートは、打継ぎ面の性能を確保するために、必ず凸面を型枠側に貼り付けて下さい（図－1）。

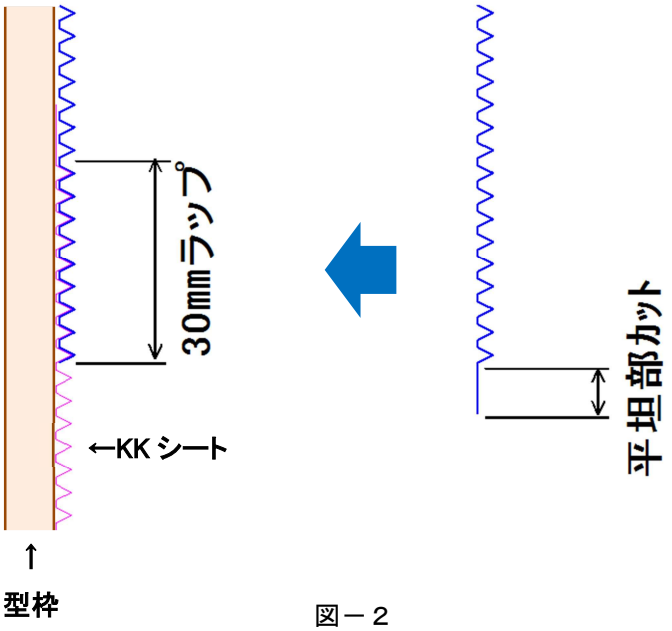




図－１

3)　ＫＫシートを張り付ける起点は、上下・左右どちらからでも良いです。

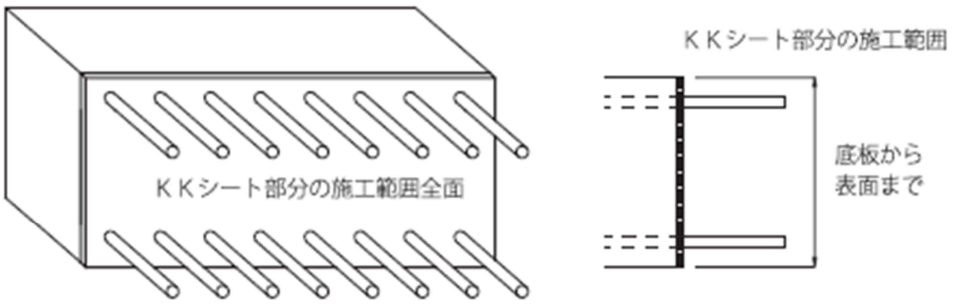
4)　ＫＫシートの継目は、30 ㎜程度ラップさせて下さい。その際、上から被せる側のシートの平坦部は、貼り付ける前に切断し、取り除いて下さい（図－２）。また、重ね合わせ部からコンクリートノロが入らないように、タッカーで確実に打ち付けて下さい。



図－２

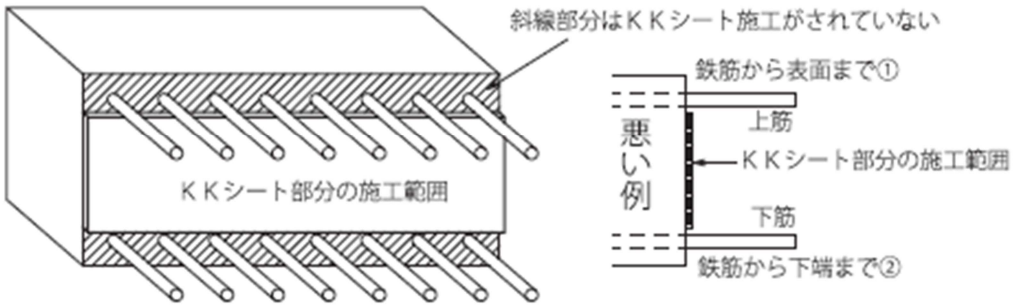
5)　鉄筋が配筋されている部分は、ＫＫシートに孔を開けて鉄筋を貫通させ、型枠の全面に貼り付けて下さい（図－３）。鉄筋のない部分のみに貼り付ける施工は、付着性能が保てず、構造物に悪影響が考えられますので、必ず全面に貼り付けて下さい（図－４）。

良い例



図－３

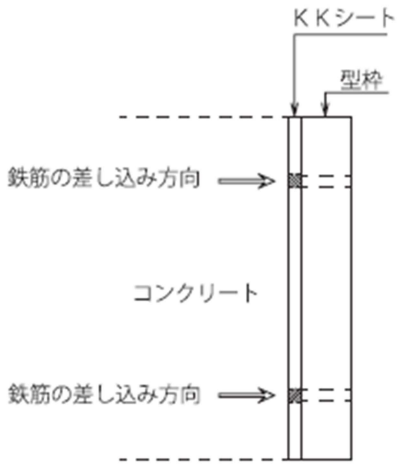
悪い例



図－４

6)　鉄筋貫通孔を削孔する場合、コンクリート側にＫＫシートのバリや削孔片が残ると、打設後にコンクリートに食い込んで撤去するのに手間がかかります。バリや削孔片が残らないように削孔して下さい。このため、コンクリート側より型枠側に向かって削孔します。また、削孔径と鉄筋径の差が大きいとモルタル漏れが生じるので注意が必要です（図－６）。

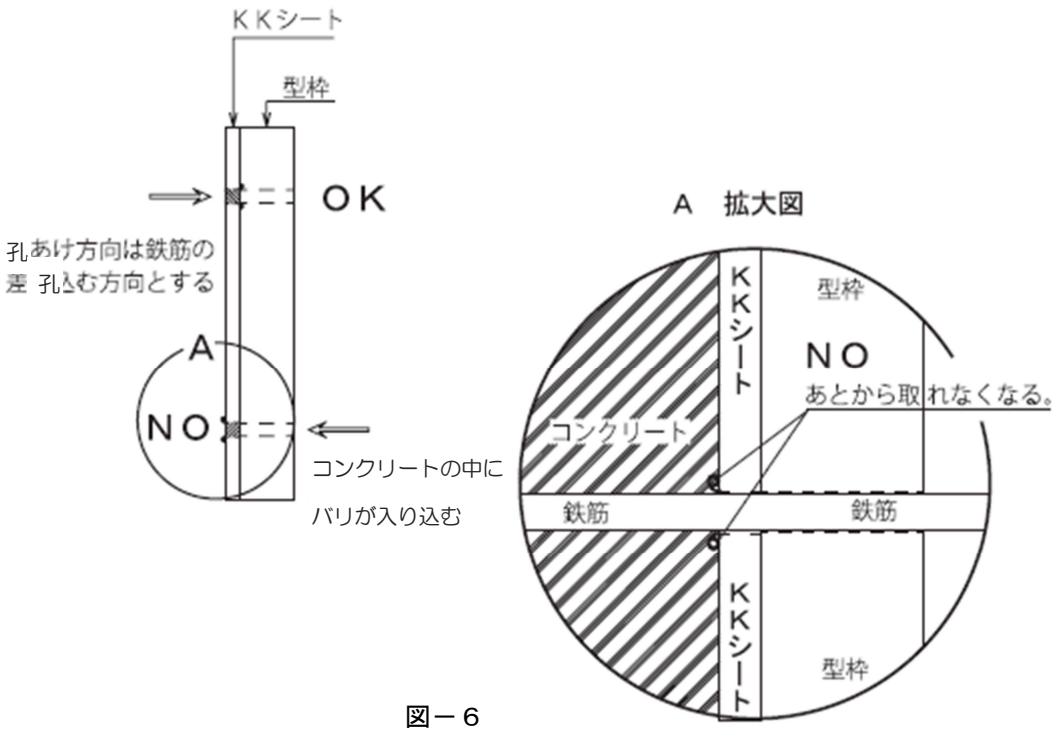
鉄筋箇所の孔のあけ方



図－５

鉄筋を差し込む方向に合わせ、パイプコテで施工するのが良い。

パイプコテについては、次項の説明を参照して下さい。



図－６

7)　パイプコテの説明（下段の写真を参照して下さい）

①　電圧は 100Ｖです（Ｆ－１）。

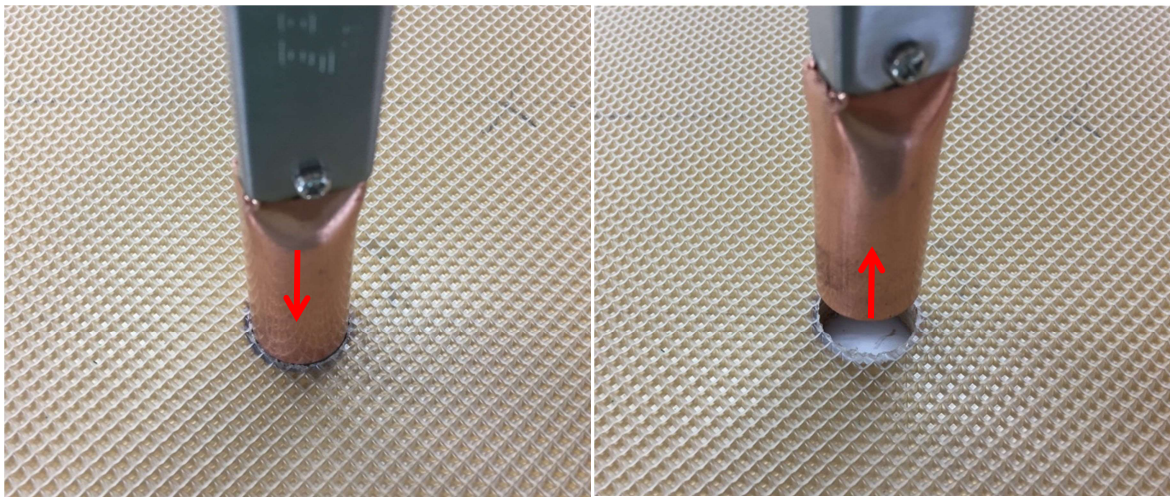
②　パイプコテは D16 用と D19 用が市販の銅パイプで製造できますが、大孔径になると熱量の関係で問題があり、電気ナイフかカッター等で削孔して下さい。

③　パイプコテは近隣の鉄工所等で製造可能かと思いますが、不可能な時は弊社にて製造いたしますので、二週間ほど前に申し込んで下さい。

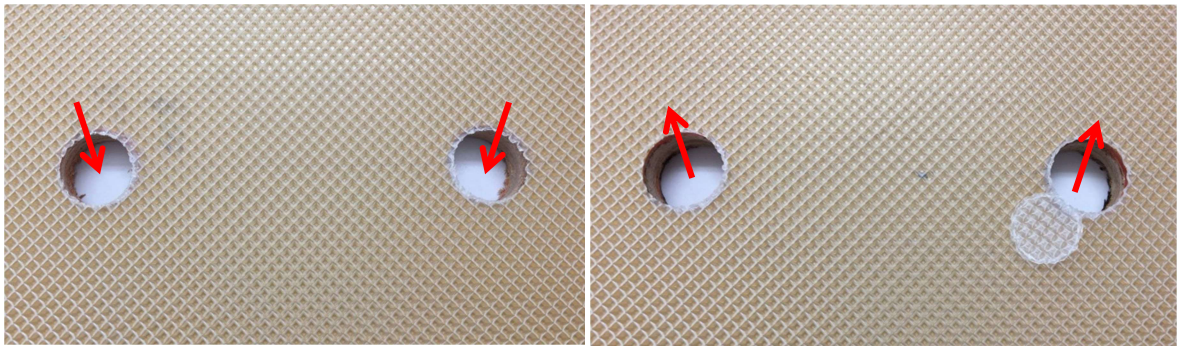
④　削孔の良い例を（Ｆ－３）、悪い例を（Ｆ－４）に示します。



Ｆ－1　パイプコテ



Ｆ－２　削孔事例



Ｆ－３　良い例（コンクリート側から削孔）　Ｆ－４　悪い例（型枠側から削孔し、削孔片がコンクリート側に残存）

8)　コンクリート打設時の注意点として、コンクリート小口型枠部の天端付近はフリージング水が集まるため脆弱部となりやすく、脱型時にコンクリート欠けが生じやすくなります。

打継面のコンクリートの品質確保は当然ですが、ＫＫシートによる打継面の水密性確保の観点から、バイブレータによる再振動やタンパ・コテ等で強く押し付けるなど、コンクリートのゆるみをなくす丁寧な施工をお願いします。

また、脱型する時も無理にバール等でこじってコンクリート欠けが生じないように、まず、コンクリートと直接触れていない型枠を脱型し、次にＫＫシートを剥がすことを推奨します。

9)　ＫＫシートの取り扱いと保管

①　適用範囲外での取り扱い及び誤使用をしないこと。

②　取り扱いの際には、油や塩分、ごみ等の付着を防ぎ、傷や変形を受けないようにすること。

③　ＫＫシートの保管は、汚れ防止のため直接地上に置くことを避け、梱包した状態で屋内に静置すること。また、屋外に置く場合には適当な覆いをし、直射日光を当てないこと。

④　使用後のＫＫシートを転用してはならない。

【解説】

②に関して

取り扱いの際に油分や塩分、ゴミ等の付着はコンクリート打継目の品質を損なう原因になります。また、ＫＫシートの形状を保持するために傷や変形を受けないようにし、高温多湿環境での取り扱いにも注意して下さい。

③に関して

ＫＫシートは紫外線により劣化するため、梱包した状態で倉庫等の屋内で保管するのが望ましい。また、ＫＫシートは指定可燃物であるため、火気に留意して下さい。

保管時の積み重ねは、20 箱までとして下さい（1 箱は 25 枚入り）。

保管時は梱包状態にし、むやみに開梱しないで下さい。開梱した場合にも、使用しないＫＫシートについては倉庫保管あるいはシート等で覆い、直接日光に当てないようにして下さい。

型枠にＫＫシートを貼り付けた後は、コンクリート打設までの期間をできるだけ短くするようにして下さい。

④に関して

打継目施工後のＫＫシートはセメント分及びゴミ等が付着しているため、転用した場合の性能は保証できません。また、ＫＫシートを取り付けた型枠を転用する場合は、ＫＫシートを完全に除去して下さい。

10）型枠の取りはずし及びＫＫシートの取り剥がし

型枠の取りはずしは所定のコンクリート強度に達した後に行って下さい。ＫＫシ

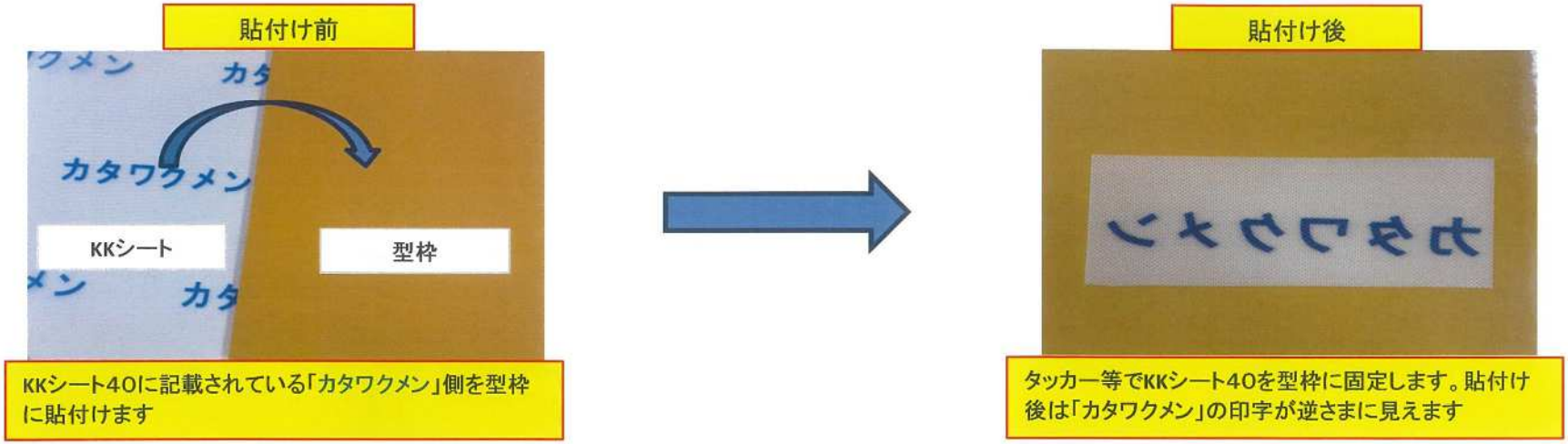
ートの取り剥がしは、型枠取りはずし時期を基本として下さい。ＫＫシートは全て取り剥がしてください。 （2017.03.01 追記）

KKシート40について　　要注意！

協立エンジ(株)

○現場で取り付け方を間違える事例が多発しています。

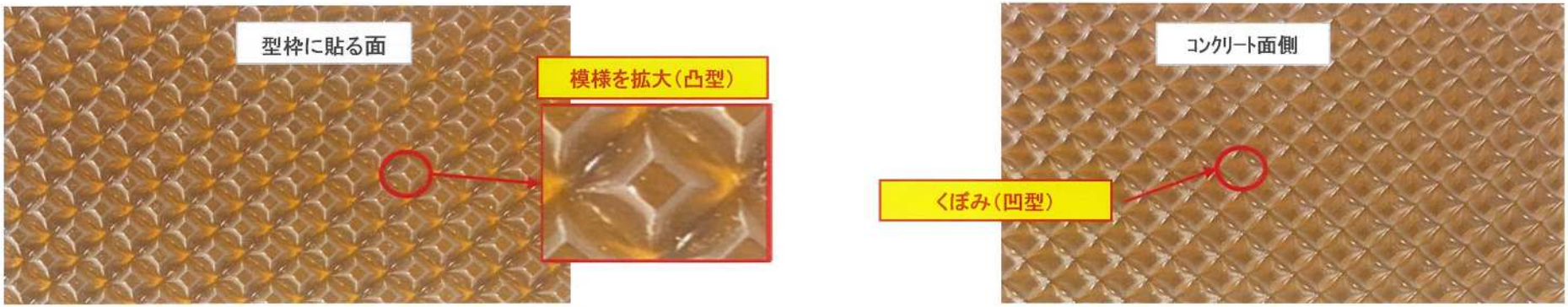
＊必ず、「カタワクメン」と印字されている面を型枠に貼り付けてください。



—KKシート40は、型枠面側とコンクリート面側の判別が困難な場合があります。型枠に貼付ける際には、以下の点にご注意ください—

◎印字による確認：「カタワクメン」と印字されている側を型枠に貼り付けてください。

◎模様による確認：細かく裁断し「カタワクメン」の印字が無い部分を使用する際には、小さな四角形の模様がある側が型枠面側になります。



●KKシート40をメタルフォームに取り付ける場合

①メタルフォームの剥離剤や油分等は事前に除去して下さい。
②型枠に張り付ける面
（カタワクメンの文字が正しく見える面）
の周辺と中央部にシール材を塗布して下さい。
（シール材はコニシ･シリコンコーク等）

③その後シールした面をメタルフォームに貼り付けて下さい。

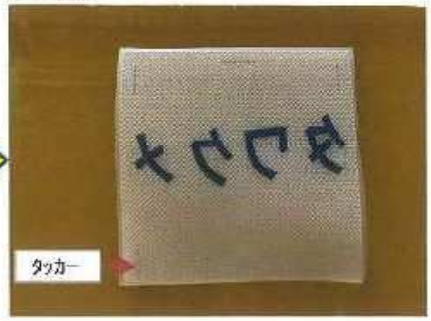
【KKシート40貼付面について】

●貼付前



KKシート40の「カタワクメン」と印字されている側を型枠に貼り付けます

●貼付後



タッカー等でKKシート40を型枠に固定します
貼付後は「カタワクメン」の印字が逆に見えます

④貼りつけた後は下の写真のように見えます。

